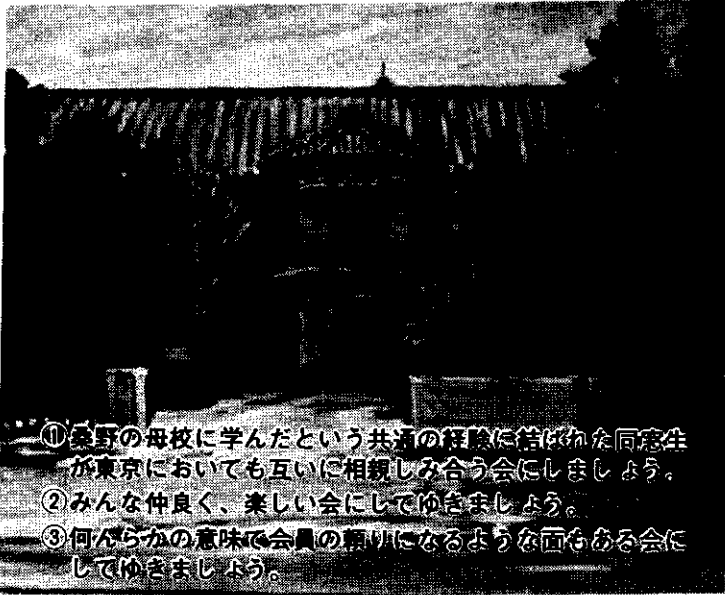


東京桑野会会報

●昭和59年4月1日発行●発行人・長谷川輝●編集人・大森直道●発行所・東京桑野会事務局＝東京都中央区銀座8-15-15銀座原ビル・武蔵一誠法律事務所内



- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結びかた同窓生が東京においても互いに相親しみ合う会にしましょう。
- ②みんな仲良く、楽しい会にしてゆきましょう。
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会にしてゆきましょう。

4



母校創立百周年に思う

東京桑野会会長 澤田 悌



今年9月には、いよいよ安積中学・安積高校創立百周年の記念すべき日を迎える。この一世紀の歴史を顧みると、それは単に安積学会及びその同窓生にとつてのみならず、日本国及び、日本人全体にとつて、容易ならぬ激動の百年であつたと痛感する。何回か多くの国民を犠牲にした経済金融の大変動と戦争の繰り返し、そして遂に第2次世界大戦では完全に敗北し、占領軍によつて徹底的な国家改造を強いられた。学制改革により安積中学が高校になろうなどは、戦前には夢想もされなかつたことである。

安積中学が創立された頃の日本は、明治維新後20年も経っていない時期で、西欧先進国に伍して近代国家を建設するために政治、教育、各種産業、金融、国防軍備等々あらゆる部門にわたつて積極的に諸制度、諸施設を創設しなければならなかつた。

よく「明治百年」といわれたのは既に16、7年前のことになるが、最近学校だけでなく、各方面で創立百周年を記念する行事が数多く見られるのは当然のことであり、戦後40年近く経て、そうした行事が祝われる程、日本の国力が回復した

ことは喜ばしい。

私が安積中学を卒業したのは昭和5年であつて、安積百年の歴史のほぼ中間に当たる時期である。

私が昭和11年、学業を終了して入行した日本銀行は、安積中学より2年先に創立され、1昨年、百周年の記念行事を行つた。従つて偶然だが私は中学にも、ほぼ50年の歴史のあるところに入り、その後また今世紀の流れを見つめてきたことになる。ともあれ、あの歴史のある桑野の母校で多くの立派な先輩にあこがれつつ、多感な青春前期、5年間を過ごすことができたのは幸せであつたと思う。今、改めてあの時代、あの自然、あの人々を回想する。

東京方面には「桑野」「安積」という言葉が懐しい実感をもつて胸中に去来するであろう数多くの同窓生がおられる。そうした共通の経験を思い出にもつ人々の集まりが、東京桑野会です。記念すべき今年を機会に先輩も、若い人達も挙つて東京桑野会を更に楽しく、かつ頼りになる会として発展させてゆきたいと思う。

＝母校創立百周年記念＝

東京桑野会50年度総会

御案内

☆と き 昭和59年7月14日㊥

受付・15:00

総会・16:00

祝賀会・17:00

☆ところ 目白椿山荘

国電目白駅・地下鉄江戸川橋下車
文京区関口2-10-8 電943-1111

☆会費 年会費 1,000円
総会費 6,000円
名簿代 500円

協賛費 1口 5,000円
(2口以上)

☆その他 連絡洩れもあるかと
存じます。恩師、縁
故者もお誘い合せの
上、多数ご出席をお
願ひします。

ご送金は振替が便利
です。

振替口座

東京8-93095

東京桑野会事務局

<会報第5号発行について>

第5号は百周年記念特集号で
す(9月1日発行予定)
総会当日まで原稿をお受けし
ますので奮ってご寄稿を。
又、広告(一枠3万円)の
ご協力ご紹介を。

今泉兼寛氏 (37期)

顧問。前副会長、58年8月11日、病氣
のため急逝。鎌倉光則寺にて葬儀が行
なわれ壁谷名誉会長、沢田会長、竹花
幹事長ほか役員多数が参列した。

中国の盟主の信義

—胡耀邦総書記との対面—

45期 矢吹陸郎



昨年11月、国の公賓として来日した
中国の胡耀邦総書記からの強つての希
望で私共夫婦は中国大使館のレセプシ
ョンに招待され、その席に先立つて30
分程、別室で水入らずの対面があつた。

そのいきさつは、家内の父、稗田憲
太郎(昭46・74才で没)が戦前満洲医
科大学(私の母校)の病理学教授をし
ていたが、終戦後は毛沢東の顧問とし
て新中国建設に主として医師養成の面
から約8年間協力した。その頃、若き
陸小平さんや胡耀邦さんと交際して互
いに友情と信頼が育かれたのである。

そして、今回、初の来日の機会に遺
族代表とせひとも逢いたいとのことで
あり、私共夫婦にとつても思いがけな
い対面の運びに到つた訳である。

その席は懐しい故人の思い出を中心
とした語らいのひと時であつたが胡耀
邦書記は家内の手を握つて「あなたの
父上のことは生涯、否死んでも忘れな
い」と感動し、そして「私に誇るもの
があるとすれば、それは、これまでの

生涯(1915生)でウソをついたことの
ないことと、偽りの行動をしたことの
ないことだけだ。との言葉が特に感銘
を受けた。流石は信義の国である中国
10億人民のリーダーであるとの感を強
めた。この言葉のもつ意義は重い。
これをお伝えしたくて私事にわたり恐
縮だが、ここに一筆した次第。

そして胡書記がその夜、書き残して
いつてくれた色紙には「稗田先生永遠
活在中国人民的心中/1983年11月25日
胡耀邦」とある。これはまさしく我が
家の宝であり、家はのバックボーンと
して大切にする所存である。

なお、この対面については東京桑野
会副幹事長の外務省、古川 清審議官
(現防衛庁国際担当参事官)が一役買
つており、感謝している。即ち、北
京週報記事「稗田憲太郎教授の回想」
の中に胡耀邦総書記と稗田氏との交友
記録があるのを知つた矢吹氏が古川審
議官に相談したところ「これは国のお
客さんに喜んで戴ける好材料にもなる
と共に中国の方の場合はこうしたこと
を一番喜ぶので承知した」と快諾され
同審議官の肝入りで実現した訳である。

ひとこと

ご挨拶を。

46期 高瀬禮二

私は46期ですが3年を終つて他に転
校しましたので、安積を卒業すること
はできませんでした。そんなことなの
に一昨年、幹事の一員に加えていただ
きまして光榮に存じておりましたところ、
今度はどういふわけか副会長を仰
せつかることになり、正直のところ、

CHINZAN-SO
椿山荘
東京都文京区関口2-10-8
☎03(943)1111
📍藤田観光

- 大小23のご披露宴会場。
- 800名様までの日本料理・フ
- ランス料理着席ご披露宴。
- 庭園での記念写真も随時お撮り
- いただけます。
- チャペルの挙式もできます。
- 最新機能の音響・照明設備。

只今、ご婚礼・ご宴会ご予約承り中。

華やかな「宴」のとき。

海外担当支配人
竹花則栄(56期卒)

いささか弱っています。同時にかねてご指導いただいております沢田先輩をはじめ皆様からいろいろと楽しいお話をうかがう機会に恵まれることになりまして、心から有難く思っております。

46期には安積の「あ」と46の「しろ」とつた「あじろ会という同期会があります。会員数も多く、毎年郡山や東京などで例会を開いて、むかしの桑野路に思いを馳せていますが例会には、いつも会員の集まりがよく、ほかに会誌を発行するなど活発な活動を続けています。残念なのは、この会の会員が東京桑野会には、あまり顔を出さないことで、ほかの期の場合も同じことのように、ことしは何とかして、できるだけ出して貰いたいものだと思っています。

私は学校を出ましてから法務・検察関係の仕事をやつてまいりましたが、すでに退官しまして、いまは弁護士をしています。毎日事務所に出ています。それも、もつぱら健康保持のためで仕事の方は分相応にマイペースです。

私は在官当時の仕事との関連もありたいま更生保護という仕事にいくらか関係させていただいています。この仕事は不幸にして罪を犯し、非行に及んだ人々の自発的な更生を助け、円滑な社会復帰をはかる仕事ですが、この分野ではご承知のことかもしれませんが、保護司を中心にいろいろなボランティアの方々が目覚しい活動を続けて下さっています。そのような方々のご協力には頭が下がるばかりですが、この仕事はもともと地域社会のなかでの仕事であり地域社会の人々の理

解と協力がなければ十分な成果をあげることにはできません。ところで、今の人々は、一般にはマスコミなどで知るいろいろな犯罪、非行そのものにはかなりの関心をもっていると思いますが、さて罪を犯し、非行に及んだ人々をどうするかということになりますとよそごとだと考え、あなたまかせの気持になることが多いのではないのでしょうか。それも無理からぬことだと思いますが、最近では、このような問題を、みずからの問題としてとらえ、一緒になって考えようという動きが多く見られるようになってきました。これは嬉しいことですが、このうえとも多くの方々が、このようなことにも関心をもたれ、できます限度でのご協力をして下さいますことが本当にありがたいことだと考えておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

いささか堅い話になりましたが、私が機会あるごとに馬鹿の一つ覚えのように申し立てることでありまして、前に、あじろ会の会誌でも書かせてもらったことがあります。この際、またちよつと、PRさせていただいた次第です。

東京桑野会に 思う。

48期 鈴木健生

ある日、突然「君は常任幹事だよ」と言われビックリしたというのが東京桑野会における筆者の立場です。しかし幹事会に出席を重ねてみて、沢田会長始め役員の方々が情熱を傾けて東京桑野会の運営と充実に尽くされて

いる姿を拝見し、感謝の念と共に自分もできないながら何かお役に立たなければという気持ちになっております。

我々は自分の職業に関わるコミュニティに最も密接した生活を送っているわけですが、どちらかといえば閉じられた社会の中にいるわけで、桑野会のような集まりは出身校を中心に据えているとはいえ、開かれた社会の交りと言えると思います。この意味で同窓の皆さんに大いに利用していただきたいと思います。

昨年10月11日、国際文化会館で50期の阿部善雄先生の著書「最後の日本人—朝河貫一の生涯—」の出版記念会が催され、私も参加させていただきましたが、通読して、こんな立派な先輩がいたのかと驚嘆し、かつ全く知らなかったことを不覚に思いました。

然し活字を通してとはいえ、阿部先生の労作により朝河博士に再会できたのも桑野会のお陰だと感謝しております。そして朝河博士の学殖は真似べくもないにしても、冷徹な洞察力と単なる学究の徒のみでない勇気ある行動力とは多くの人が、特に我々後輩としては大いに学ぶべきであると感じた次第です。

最近ある機会に聞いた話に、明治時代以降、我々は「人生50年の社会システム」の中で生きて来たが、現在の高令化している日本では「人生80年の社会システム」を考え、確立しなければならぬ。「年の功」は資源の一つであるから大いに活用すべきであるというものがありません。還暦を越して数年の筆者などは大いに力を得たような気がいたしました。

先輩方もどうぞ益々お元気で、その立

騒音・振動・超低周波

〈計量証明事業登録第507号〉

- 現況調査 ○予測計算 ○防止対策計画
- 消音・防振装置の設計と製作
- 実績 エネルギー・運輸 金属・化学
電子・機械 繊維 機械 紙パ
自動車 造船 食品



東昌エンジニアリング株式会社

〒108 東京都港区港南 2-4-7 (石橋ビル)

電話 03-471-5891 代表
代表取締役 鈴木健生 (第48期)

派なご経歴からにじみ出る年の功という資源を惜しみなく後輩に分け与えていただき、ご指導をお願いしたいと存じます。

今年は母校の百周年記念行事がありまた総会も開催されますが、1人でも多くの同窓のご参加を期待し、広く多くの方々との交りを通じて、ご指導を得たいと念願しております。

40年振りの 再会。

54期 森岡春資

昨58年7月、某土曜日、月例の碁の同好会に出席し、そのあと数名の碁仇連とビールで涼をとり、夜の9時過ぎ帰宅すると、家人が夕方、安積の同窓で車様とおっしゃる方から電話があり「東京のプリンスホテルに宿泊している。ぜひ会いたい」との伝言があった由。碁の成績があまり芳しくなく、いささか疲れていたので早く寝ようと思っていたところだが、とたんに頭脳明せき、歴史が逆回転40数年前の安積野に立つ。

小生は昭和12年入学、寄宿舎に入り3年間、諸先輩に厳しく指導(しごき)された懐しいひと駒々が走馬灯の如く鮮明に甦った。車元 鎔まさしく2年先輩の大恩人の1人である。昭和15年別れて以来、実に40数年振りである。早速電話をしたら待っているとのこと。幸い拙宅よりホテルまでは30分の距離なので、汗臭い遊び着のまま馳せ参じた。おー、おーと固く握手。面影は一瞬にして中学生に戻る。まさに浦島太郎である。車先輩は韓国

籍で安積を出て医学を学び、戦後母国に帰り、家庭をもち医者をしておられた。10年程前、日本で医師不足の折、招かれ、また子息の教育を日本でとの希望もあり、栃木県黒羽町に赴任、大元医院を開業、現在に至っているとのこと。

最近配布された桑野会名簿にて旧友知友の消息を知り、懐しく、方々に連絡、旧交を温めている由。東大に学ぶ御子息ともども深更まで語り合い、再会を期し別れた。誠に爽快な夏の夜のひと時であった。日韓のかけ橋たらんと頑張っておられる車先輩の益々のご健闘を念じて止まない。

屋上の四季

58期 山本 佳

先月満55才になった。少しばかり鮮度は落ちたが生臭さも未だ残っている年令である。おのづから諦観めいたものは在るが、これから20世紀までの道のりに、それなりの夢は持っている。髪こそ白いが未だ枯れ切るには間がある。数年前まで広い庭付きの家が欲しくて仕方なかった。日和田生まれの私にとって安達太良の山肌は母の乳房であるし阿武隈のせせらぎは産湯であった。東京の下町のコンクリートで固められた小さなビルが「終の栖」かと思うと何か釈然とせず、大自然に対する憧憬が強まって行った。

哲人ルソーは人間の未開の状態を理想状態と考えた。「人間はどんぐりの木の下でどんぐりを腹一杯喰べ、小川の水で渴きを癒やし、食物を提供して

くれた、その同じ木の下を自分の寝場所とする」このように表現しているのではない。

北西に大きな木があり、遠くに山脈が望め、邸内に小川が流れていれば申し分ない。通勤1時間以内にターゲットを定め、方々探し求めた。結果は無惨だった。土地の値段が想像を遥かに上回り、とても手の届く値ではない。がつくりと肩を落としての帰路だった。何か^{じくじ}忸怩たる心境のまま歳月が流れた。

ある時、戦住分離と広い土地付きの住居の願望について友人に相談した。彼は囲碁ゴルフはスクラッチの遊び仲間だが又、毎日3時間の読書を欠かさぬ博識の年長の弁護士である。

即座にアドバイスしてくれた。「あなたも、もう間もなく50才でしょう。これからは生活をいかに簡便にするかを考える年令ですよ。体の疲労度の少ないコンパクトな生活設計ということですよ。あなたの場合、都心に職任一諸のビルがあるのは、無駄がなく理想的ですよ。家族構成が色々に変化すればマンションを考えれば済むことです。通う時間は体を休めるか、余技に使ったらよい何を好んで高い金を投資して自分の体をすり減らし、持ち時間を足りなくするのですか?」…明解な言葉に積年の胸のしこりが雲散霧消してしまった。早速この住いの中に自然をどう取り入れるかを考えた。

一つ、上野公園を我が庭と定め、毎朝散策すること。二つ、屋上に超ミニ庭園を造り朝夕いつくしむこと。

早速、安行の植木屋さんに頼んで4階屋上、東南の4坪程の所にトラック1台分の土を入れミニ庭園を造った。

FROZEN FOOD

五十嵐冷蔵株式会社

〒108 東京都港区芝浦 2-10-5

TEL 03 (451) 1111 (大代表)

テレックス 242-4442

常務取締役 吉田弘俊 (第52期)



風当たりの強い日があるので背丈の低いものを選んだ。五葉松を中心に、つげ、ひいらぎ、もっこく、山茶花、青しだれ、樟、さつき、沈丁花、白梅、紅葉蕨など植え、庭園灯を設置した。昨年は芝生も敷いた。別の十坪余のスペースは一部を物干し場に利用し、周囲にふじ、蜜柑、しゆろ、野竹、ガジマルなどの植物を並べた。6年経った現在、植え込みや下草もすっかり落ちつき、少年の頃、親しんだ猫じやらしや、タンポポ、蛍草も生えてきて近くの公園から小鳥が毎朝飛んでくる。

一方、上野の森のわが庭は寛永寺の鐘で明け、染井吉野や蓮の花、不忍池の渡り鳥、銀杏と、四季それぞれの趣があり、楽しませてくれる。往年の庭つき邸宅の願いは悪夢のようにも思えてきた。アドバイザーの長友には頭が挙がらない。人生も考え方を少し整理し、願望の軌道修正をすると望外の喜びを味えるものである。

屋上にも故郷はある一

屋上にも四季はある一。

安積の思い出

68期 伊藤泰昭

小生は昭和30年卒（68期）ですからもう卒業以来28年の歳月がたっています。入学して驚いたのは、まわりはジーニアスばかり、小生のような田舎中学出には授業についていくのに大変だった。とくに町の中学からきた連中は英語に強いので、いつも学期末テストでは平均点で差をつけられた。なんとか2年生に進級してから、みんなと同

じくやっていたようになった。

授業時には、よく騒いで恩師に黒板ふきで頭をなぐられたりしたのが、今ではよい思い出となっている。

小生のクラスは学年で一番ワルであったが、どういうわけかテストをやるが一番になるので不思議であった。その悪友連も今では大学プロフェッサー、大企業の部長になって「安積スピリット」をいかに発揮しているのは頼もしい限りである。

安積在京の皆様、この東京桑野会の発展のため御健康に留意し頑張ろうではありませんか。

下駄＝バンカラ ＝質実剛健＝安積？

89期 武藤美彦

たまに帰郷し、街中で安高生を見ると、やはり親しみが湧いてくるわけだが、それにつけても、まず、びっくりすることは服装が小ざれいになったことである。折り目の入ったズボンに革靴というのが、どうやら今の標準らしい。小ざれいなのは結構だが安高生ともあろう者が頭にはパーマをかけ、サルマタダカステテコだか解らぬようなズボンはいたヤツさえ見受けられるのである。

我々の時代には、よれよれの学生服に運動靴が普通で、折り目の入ったズボンなんかはいていった日には、放課後までにボロボロに「箔」をつけられてしまうのが落ちであった。私なんぞの場合は、表向きには禁止されていた下駄を履き、腰には醬油で煮しめたような手拭をぶら下げて精一杯バンカラ

ぶっていた。

下駄についての面白い話であるが、うちの兄貴（79期）が在学中に下駄禁止令（防止？）が出されたらしい。それによれば「新入生は下駄禁止、2・3年生については、好ましくはないが、その限りではない」というものであったらしい。昔からのバンカライメージの安積としては、頭ごなしに下駄を禁止するわけにもいかず、かといって放っておくわけにもいかずという苦肉の策だったのだろう。

兄貴の時代から丁度10年後の私の時も、やはり下駄の人気は根強く、禁止されると、なおさら履かずにいられない衝動があった。何曜と何曜の朝だったのか忘れたが先生方がまわり番で校門に立ち、服装のチェックが行なわれていた。その時分もパーマをかけたり頭を油でピカピカにしている不屈者も見受けられたが、ま、ほんのごく一部であって、そういうヤツらがビシビシ取締られるのは大いに結構であったが、下駄が見つかるとうやほり具合も悪い。取締る側の中でも大部分を占める安積出身の先生は、昔からのことだからと大目に見てくれたり、下駄履きにくるといなくなったりする。なかには某高校出身とかで昔から安積にコンプレックスを持っていたりする先生に見つかるとう大変な騒ぎになるため水虫の診断書を出したり、校門をくぐるときだけは運動靴に履きかえたりして、一生懸命に青春を謳歌したわけである。

日頃このように苦勞して下駄を履いていたわけだが、野球の応援の時だけはたいばり履けた。1・2年のうちはまあ遠慮をして平たい下駄の鼻緒の黒

有利さて選ぶなら

中期国債ファンド

1カ月複利の効果で
いつでも一番有利



かい せい

借成証券

本社 東京都中央区日本橋兜町13-2
☎ (666) 1431 (大代表)

本店営業部長 近内靖夫 (第69期)

いやつなんかをひかえめに履いていたのが、いざ3年生ともなると紫の旗の下、白鼻緒の高下駄をカンラカラと鳴らして、安積を応援したものであった。下駄=バンカラ=質実剛健=安積とは単純につながらないではあろうが、何か安積の繊細かつ大胆、さらには野性味あふれる校風を“安高生諸君”忘れないでくれよ!



84期 菊地弘美

安積高校を昭和46年に卒業してから今年で13年目を迎えます。この間、大学時代は安積高校出身であることを強く意識する機会が多かったのですが、社会に出、荒波にもまれ始めると、余裕がなくなり、そのような機会も少なくなっていました。

しかしながら、私自身の交友関係を振り返ってみますと、大学時代、社会に出てからつくられたものも多いのですが、高校の同期生とのつきあいは、かけがえのないものになっております。お互いに仕事を持ち、家庭をもっているために、そう頻繁に会うことはできませんが、会うたびに益々大切さが増してきております。

さて私は、昨年初めて東京桑野会総会に出席させていただきました。澤田会長以下、大先輩の方々ばかりであったので、正直申しまして簡単には入って行くことができませんでした。また、勇気を出して大先輩の方々とお話しようと思っても、何を話題としたらよいかと迷ってしまいました。

しかしながらこのようなすっきりしない気持ち時間の経過とともに次第に消えて行き、総会の大詰に至り大先輩の方々と肩を組み「若草萌ゆる…」と校歌を歌い始めたときは、総会開始時の戸惑いがうそのように思われました。安積の校歌を大声で歌い合えるということだけで年齢、世代を超えた人間的つながりを持つということは素晴らしい限りであると思います。

この総会を契機として、私自身少しでも東京桑野会のお役に立つことができたいと思ひ、現在、名簿の作成に参加しております。名簿の完成により、東京桑野会の組織面が充実し、更に比較的、若い会員の方々も参集して、安積創立百周年記念の東京桑野会総会が7月14日㊤に椿山荘で盛大に開催されることを祈っております。



90期 荒井広幸

不完全で矛盾多い内容ですが、敬愛する徳永、渡部両先生のご薫陶のもと現在の私の考え方をまとめました。ご助言、ご指導をお願いいたします。

○はじめに

「この程度の政治家なら、その程度の国民」という政治家の発言がありました。マスコミ、世論は国民を侮辱するものと批判しました。しかし、この発言には政治家と私達国民双方にとり反省すべき内容があると思います。

この内容を、政治家を志す者として、特に政治家の責任と使命という視点から述べたいと思います。

○政治と政治家

政治は、自由や安全保障、サービスの供与など広い意味での福祉の維持増進という公共政策の達成を図り、そのために公共的意志決定や合意の形成をするための権力を意味すると捉えています。私達は代表制民主主義に価値をおきますから、主権者である国民に代って政治を行う正統性を選ばれた代表、すなわち政治家に認めているわけです。ここに政治家に必然的に課せられた重大な責務があると思います。

○基本的責務としての政治理念

かつて、E・パークは「私はプリストルから選ばれた議員だが、英国の下院議員だ」と力説し、M・ウエーバーは「政治家にとって大切なのは将来と将来に対する責任だ」と説きました。

これらは、少々抽象的すぎますが「私達の子や孫に対して責任ある未来を創るために、国全体の利害と地元や業界の関心や利害をいかに調整するか」ということだと思います。

これが政治家に課せられた基本的責務であり、政治理念ともいうべきものです。残念なことに多くの場合、この実践はなかなか難しいと思います。何故でしょう。その原因の一つに選挙があるからです。

○選挙

政治家は選挙で選ばれて、はじめて政治家となります。前述の理念をもち、立候補したとしても、当選しなければ、その実現は図れません。ですから、どうしても国全体を見わたすことよりも地元の関心をかうことにウエイトを置いて、当選するようにせざるを得ません。しかし、これでは矛盾です。なに

索道施設の総合設計施工管理

豊富な経験、最新の技術、万全のアフターサービス

東京索道株式会社

本社・工場/横浜市金沢区鳥浜町12-9

〒236 ☎045(774)7111(代)

〒062 ☎011(812)0467

取締役社長 横尾正七郎(第47期)

- ゴンドラ
- スキーリフト
- ロープウェイ
- ケーブルグレン

58期 中野目直明

14年間の長期間にわたり、教育委員会に勤務し、久し振りに学校に戻り、校長職についた。今までは、教職員の研修および教育研究に従事していたがいよいよ教育の第一線に出ることになった。最初はとまどいを感じ、毎日が初体験の生活であったが、約1年を経過して大分、慣れてきたこの頃である。

学校に戻っての実感、学校も生徒も教師も変わったな、ということである。主なる変化として、子どもや父母の考え方や生活態度の変化がある。

たとえば、最近、養護教諭から依頼があり、朝礼で、けんかのルールについて話してほしいといわれた。今の子どもは、けんかのしかたが分からず、相手にけがをさせて困るというのである。首から上は、手ではたいてはいけなとか、多数で一人をなぐったりしてはいけなとかのルールが守られていないという。今の子どもは兄弟が少ないので、けんかをしないで大きくなり従って、けんかのしかたも知らないのではないか。けんかを始めると、相手が、けがをするまで徹底的にやってしまう傾向がある。

また、人間と人間との結びつきのしかたを知らない。子どもが一人か二人という家族構成のためか、友人とのつき合いがうまくできない子どもがいる。耐性がないのも、現代っ子の特徴かも知れない。生徒会ニュースにクーラーをつけて欲しいとか、さまざまな要求

も地元や業界の利を図ることを否定するものではありません。むしろ、現実生きる政治家にとって大切な役割です。

が、問題は選挙のためにいつの間にか、当選するための理論が政治理念をどこかに追放し、同時に政治家になること自体が目的化してしまうということです。選挙は常にこの危険をはらむのです。説明不足ですが、言いかえますと、選挙をどのように戦うか—現実とどの位置で妥協するか—によって、その政治家の将来が決まるともいえます。

○危険性の土壌

この危険性の土壌を、京極東大教授は国民の政治家に対する依存と「甘え」と、政治家が地元や業界の意見、要求を、その理非や筋の有無を問わず受けつける「親心」の二つの秩序意識のもとで「地元の面倒」と「票」とを交換する〈利〉の政治風土として説明しています。ここでは交換する場が選挙ということになるわけです。

○責務

この交換の場では、当面の自分達の要求達成を追求しすぎる選ぶ側の意識（生活する人にとって、これはごく当然です）が、選ばれる側に、彼らへの「迎合」を強力に求めて来ます。そこでは、理想に向けた現実の建設的な改革は、なかなか求められません。これを説得する努力こそ政治家は払わねばなりません。政治家は決してその力のまゝに、政治理念を捨てて、屈服してはならないのです。

しかし「それなら、あなたは当選できないでしょう」という声があります。政治家はその現実をよく知るが故に、

その声によって政治理念は風化し、政治家になることが彼の政治理念となってしまうかも知れません。これでは政治家になる資格はありません。

このことを肝に銘じて、日常の政治活動はもちろん、選挙にこそ、たえず自分自身を反省し、自覚する努力が政治家には大事な責務だと思えます。

○これから

この姿勢を貫ぬいて、具体的な問題に対して、政治理念にそったビジョンあるいは代案を、方法論をつけて提示すること。そして、その説明と説得の過程を通じて、今日より明日の〈利〉のために「先行投資」としての一票を投じて下さる方々を地元や業界で増やしてゆく実行が必要だと考えます。

「そんな考えは甘いゾ」という声が聞こえます。もちろん、今日と明日のウエイトの置き方はケース、バイ、ケースですし、このことがすぐに受け入れられない「現実の政治」があることも充分知っています。しかし、これから政治家になろうとする者にとって、少しづつ地味ながらも一当選ばかりを念頭におかず—これらの責務を実践する勇気と覚悟が、今ほど求められている時期はないと思えます。

「政治家は自分の言ったことを信じていないので、他人が信じてくれるとびっくりする」と言ったド・ゴール元仏大統領の言葉が、私にとっては実に印象的です。



中外製薬

成分が変化した胃の粘膜を保護します

胃の痛み、もたれに

中外胃腸薬

60錠
120錠
〈携帯用〉144錠

いたわるのは、
あなた。
守るのは、
中外胃腸薬。

松本幸四郎

が掲載されている。我慢することがなく、何でも要求すれば、かなえられるというのが、豊かな社会の中に生活する今の子どもたちの傾向である。

しかし、今の子どもたちの長所も見逃すことができない。生徒に尊敬する人物は、と聞くと、かなりの数にのぼる生徒が両親を挙げている。

私たちの頃は英雄や著名人を考えたものだが、今の子どもは身近な存在で、自分のために苦勞している両親を尊敬すると答えるものが多く、これは現代の子どもに見られる特徴であり、今の子どもが現実的であることを物語っている。音楽の先生になりたいとか、コンピュータ関係の仕事に就きたいとか将来の職業の見通しをはっきり持っているものもある。単に理想を追うのではなく、現実の社会を見つめて、自分にできることを着実にやっつけていこうという現実主義的な考えを持っているものもかなりいる。

次に父母について述べてみたい。私が14年前に学校にいた時代と比較すると、かなり意識や生活態度に変化があると感ずる。この1年間を通じて、今まで私が出会った父母とは全くイメージの異なる数人の父母と生徒の指導をめぐって対応したことがある。学校の方針に批判的というよりも、追求するという態度で、問題が自分に有利にいかないと告げるといふ短絡的発想が見られる。これも、かつては見られなかった考え方であり、学校に対する考え方が、かなり変わっている事例である。また、どうしても母親が子どもの教育を全面的に担当しており、父親と接する機会が少ない。何か問題が

起こったとき、父親との話し合いの必要性を痛感する。父親がもっと子どもの教育について関心を持って、ときどきは学校に来ていただければと願っている。

次に、母親のパートが多いのも、現代社会の特徴であろう。パートに出る理由はさまざまであるが、現在の生活水準を維持するために、一定の収入を得たいというのが意外に多いように思う。それ程、経済的に苦しくなくても他の人がやっているからとパートに出ている人も多いようだ。このことが生徒の非行と関連する場合も多い。

母親の帰りが遅いとなれば、子どももつい外からの帰宅が遅くなる。外にいる時間が長いと、友人と繁華街に行ったり、留守の家庭で、たむろすることになる。できれば、母親が家庭にいる時間を多くして欲しいと思っている。



私の学校がある地域はPTAの活動が活発でPTAの役員や委員の方々が、しばしば会議やプリントの用事で学校を訪れている。このような活動は、以前に勤務していた時代よりは、ずっと積極的に、かつ多様になっていると思う。婦人運動会、バス研修旅行、コースなど、母親のPTA活動には目を見張るばかりである。パートをしている母親も、その合間をぬって、会議や行事に参加している。

学校教育が新聞にとり上げられることが多く、きびしい批判もあるが、それだけ学校への期待が大きいとも考えているこのごろである。

問題は山積していて、今の学校も教師

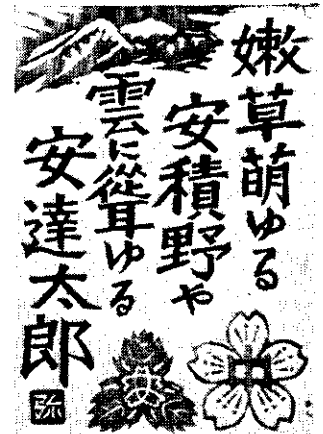
も困難な仕事をかかえているが、生徒や父母の実態を十分に把握するように努力して、これからの社会を背負う子どもたちを育てていかなければと思っている。安積中学校、安積高校の先輩各位のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

先生からの年賀状

58期 星 武典

作者、柳沼弥重先生は、当時、生物の担当で、私達に熱意をもって教鞭をお執り下さった方です。私達高校第1期生は戦後、間もない頃でしたので精神的にも非常に荒んでいた時代でしたが、教師として、また先輩(46期)として、あたたかく、抱擁力をもって我々に接して下さいました先生です。

先生より年賀はがきとして懐しい中学校、そして高等学校を題材とした版画を頂戴し、この素晴らしい作品をぜひ会報にと思い、先生のお許しを戴き、早速掲載させて頂くことにしました。



母校と故郷の香りがいっぱい

日丘電線株式會社

<活躍中の桑野会メンバー>

新関 豊 (54)	根本重則 (89)
山崎 清博 (81)	本郷晃夫 (90)
渡部 陽一 (88)	大橋晴志郎 (77)
佐藤 二郎 (90)	八代誠司 (88)
古寺 裕 (65)	大越 一郎 (89)
内藤 清吾 (85)	

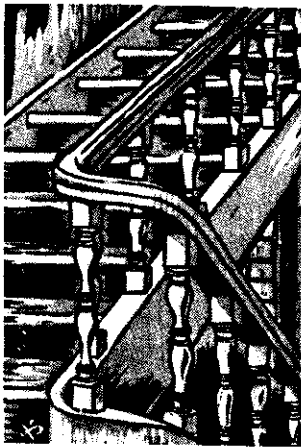
電線・ケーブル・伸銅品・工業用ゴム製品
(光ファイバーシステム・電子機器用電線・電子材料)

日立電線特約店

日松商事株式會社

〒113 文京区本郷2丁目18番1号
電話 03 (814) 8 1 1 1 (代)

代表取締役社長 星 武夫 (第49期)



安積健児がたどった青春の昇り口

先生よりの書簡の一節をご紹介します。

「数百の教師より、旧校舎が生徒に語りかけるものの方が値打ちがあると思っています。3年間(5年間)旧校舎をみる若い者の中に、他の高校(中学校)では得られないもの、何かがあると思っています。」

会員の業績紹介

49期 大森直道

期せずして会員2名の業績が最近新聞をにぎわした。

— 鎌田正二さん(43期)の場合 —

日経の連載もの「サラリーマン」は5回つづけて鎌田さんの主宰する「千葉フラインケミカルグループ」を紹介した。それは題名のごとく、高令化社会時代の老人雇傭問題を取り上げた記事であった。しかしこの記事は単なる高令者問題の他に、優れた経営の物語であり、さらに共同体の実験と成果を伝える珍しい成功の報告でもあつ

た。以下、簡単に紹介して見よう。

「」内は記事からの引用である。

○事業の概要

「“老人会社”と呼んで構いませんよ」自信の言葉がまずとび出してくる。

鎌田さんは16年前に定年退職者の会社、千葉フラインケミカル(千葉県市原市・資本金3千万円)を設立したこの道のバイオニアだ。

最初に手がけたのはチツソ五井工場から出る産業廃棄物の処理。鎌田さんは、これを捨てるのではなく、再利用することを考えた。ポリプロに少量混入して、弾力を持たせたり、ダンボールに浸こませて防水効果をもたせるなど、目新しい用途の開発に成功したのだ。工場内に山と積まれていたゴミの山が文字通り“宝の山”となった。このヒットが会社の将来を決定づけた。仕事が次々に舞い込み、みんな懸命に働いた。

特許公報の抄録、翻訳の“東京シンクサービス”産廃処理の“市原不燃物処理”消臭剤製造・販売の「ナプロ」など関連会社も次々と増え、今では全部で8社、従業員204人、アルバイト105人の陣容だ。

58年3月期決算は2千万円の黒字。企業規模としては小さいが、上場停止ひん死の親会社チツソとは比べものにならないほど活気がある。

「いかに創造的な仕事を探し出してくるかということだけが、鎌田さんの神経の使いどころだという。」

○企業としての特徴

いまだき“老人会社”と自ら名乗るような、常識的にはひどいハンデイを持った企業が2千万円の黒字を挙げる

には、それなりの優れた特徴がある。

「多額な設備投資を必要とする工業の道を選ばなかった」「多岐にわたる社員の前歴に合わせて多角経営とした」「仕事によって別会社をつくって社員に独立の精神を持たせ、参画意識を持たせた」「後述の制度により、給与を営業収益以内におさめ、しかも従業員にその給与制度を納得させた」

「世間の逆手をとって経験豊かで能力高く、年金があるので少ない給料で働らいてくれる、しかも採用に苦勞しない高令者を存分に活用した」等々、まことに独自にして、すぐれた経営感覚である。

○すぐれた共同体として

この記事の中には、一カ所も「共同体」とは書いてないが、このグループは、まぎれもなく、類まれな、すぐれた共同体である。

高令者問題を自らの手で解決するという明確な理念を持っている。また社内組織に上下の関係はない。商法に従って役員も社長も、決めてあるが、社内で肩書きは一切使わず、みんな、サン付けだ。記事は「タテ社会、肩書き第一の企業社会に対する強烈なアンチテーゼである」と書いている。

仕事で必要なら部長、課長でも好きな肩書きを使えということになっている。肩書きがなければ下から押し上げられることがないから働ける間は、何年でも働ける。最もユニークなのが、その給与体系である。年功給、能力給の本来の考え方はない。60歳までは定年時の7割で、多少、年功・能力の影響が残るが60歳を越すと厚生年金が本質的に給与とみなされ、月収は8万

営業品目

- 産業廃棄物の処理
- 一般廃棄物の処理
- 産業廃棄物の加工

市原不燃物処理株式会社

〒290 千葉県市原市五井 2887 TEL 0436-21-6308

代表取締役 鎌田正二 (第43期)

円にダウンする。厚生年金と合わせ、月に23~24万円という、ほぼ全員同額の給与となる。もっとも、その後はマイナスの意味の能力給で会社からの給与は減っていく。一見「財布は一つ」には見えないが、むしろ英知に裏づけられた近代的な「共有」と言えないだろうか。実質は強い助け合いでありながら、わずらわしい思いをしないですむ。どうして安月給で働くのか。

「仕事の中に自分の社会的役割を実感したいため」というものだ。

日本人は民族性として、共同体意識が強いとされながら「共同体にして失敗しない例は珍しい」と言われる中で、このグループが老人の集団でありながら活性溢れる共同体を成功させているのは、強い指導力と成員が人間のドロドロした執念を巧みに処理して、「水魚の交わり」の心境に到達しているからであろう。

近づく高令化社会を目前にして、この集団の実験は一つの「快挙」である。

最後の「日本人」 朝河貫一の生涯

岩波書店

— 阿部善雄さん(50期)の場合 —

会員、阿部善雄さん(50期)の「最後の「日本人」—朝河貫一の生涯—」が9月末発刊された。58年10月11日、国際文化会館で開かれた出版記念会は、松本重治(国際文化会館長)、ジョン・ホール(エール大名誉教授)、大久保利謙(歴史学者)の諸氏をはじめ内外の良識を集めて、誠に充実した会合であった。松本さんによる「阿部さんの本書は近来の「一大快書」である」との祝辞が著者の偉業をたたえるに最もふ

さわしい言葉に思われた。

いま本書の主人公と著者との同郷、同窓の一人として、思いつくままに本書に対する素朴な感想を綴ってみようと思う。本書の趣旨の紹介は勿論、我が任ではない。本書は朝河博士の生涯を伝えるのに最もふさわしい著者を得た。阿部さんが自序の中で「私も博士の足跡を調査するために3度、エール大学を訪れた。もとより私の念願は、この学者の魂を故国に迎えることにあった」との言葉が阿部さんの博士に対する熱い思いの凝縮であり、そのあらわれが本書であろう。勿論、主人公と著者が同郷、同窓であることも幸いした。淡々として流れる美しい文章の行間には身近かなものだけが、うなずける描写も数多く見受けられる。

「新聞にイとエのことが書いてあり」東京から転校してきた同級生の一句である。博士ほどの大学者も、培われた風土の影響から逃れられないものようである。著者は本書の何箇所かで、「招ぐ」という方言を指摘している。ところが一方、著者も本書の書き出した所で「妻の旅姿は弱々しく、疲れきった彼女の背には男の赤ん坊が、おふされていた」とやっている。

東京から転校して来た私の友人なら、こうは書くまい。主人公と著者の風土を介してのつながりが、なんとも言えず、ほほえましい。

「朝日」の書評子が「朝河は実に数多くの訪米学者の面倒をみた」と書いているが、書評子はおそらく、そのよってきたところを知るまい。これは継母エヒの影響であり、更にさかのぼって、東北の人情のさせるわざであるこ

とを我々同郷人は自然にさとることができる。母エヒは「老幼親疎の区別なく村民へ物を贈ったりし、…来客にも酒食を供するのを楽しみにしていたので…」と村人から褒められるような女性であったが、これは彼女の資質であるとともに東北の風土に根づいた人情であった。博士の訪問者、来客に対する応接は考えながらやっていたことではなくて、客を迎えて、そうせずにはおれなかった東北人の姿なのである。

本書の中に、博士の資料づくりの話が数カ所でてくる。松本重治さんが、エール大学寄宿寮に博士を訪ねると、いつも資料のカードを作っておられたという。また第一回帰朝の前にエール大蔵書、日本関係図書類4千冊の目録を自力で作っておえており、更に第2回帰朝のとき、東大史料編纂所で東大寺文書のうち4千通の目録を1カ月たないうちに完成させたとある。また大震災後、アメリカで集められた寄贈本の整理を引き受け、東大に目録とともに引き渡した。また遺品の中に受信、発信の控、あわせて3千通が整理されていた等々。複写機械が殆んど絶無のときに大変な仕事だったろうと改めて驚かされる。私がこんなことを書くのは実は本書を読んで、博士の行動が年、月、日別にのべられ、発信、受信の書翰が縦横に駆使されているのを見て、阿部さんが日誌、書翰、論文等、尅大な朝河コレクションの中から本書をまとめられるには、おそらくこれまた尅大なカード、ノート、コピーが山のように積み、その中から本書が抽出されたとすることに思い到り、主人公

- コラーゼ化粧水 100ml 2,500円
 - コラーゼ乳液 100ml 3,000円
 - コラーゼクリーム 35g 3,800円
 - コラーゼゴールドクリーム 40g 8,000円
- (いずれの製品とも医薬部外品です)



素肌みずみずしく。
うるおいのS-コラーゲン配合。

コラーゼ

- 保湿性の高いS-コラーゲン(可溶性コラーゲン)を配合。
- 色素・香料を含みません。

● 商品に関するお問い合わせは持田製薬株式会社
〒160東京都新宿区四谷1-7コラーゼ専用電話03-359-4355 持田製薬



の業績を叙するのに、博士と似た努力があったことに強い感慨を覚えたからである。

博士の業績の一つとして、数度にわたる日米公共機関のための文献の収集がある。アメリカに日本関係図書が絶望的に乏しいことを歎いていた博士は第一回帰朝時、エール大図書館・米国議会図書館のために、日本関係図書の大コレクションをもたらした。

エール大3578巻、議会図書館9072巻。現在両者は、共に世界有数の日本文献所有者であり、それぞれ12万巻、68万巻の日本関係蔵書を有する。博士はその発展の基礎を築かれたのであった。

ついで第二回帰朝時、博士は日本エール大学の歓迎会で日本関係の図書文化財を母校に寄贈することを提案、自らも基金を寄附したが、16年の歳月を経て1934年までに「日本エール大学コレクション」の収集を終え、法隆寺百万塔、東大寺文書、興福寺文書等々の貴重な文化財を同大バイネキ館が收藏するに到った。また大正12年の関東大震災は天災か人災か、日本民族有史以来の文化財の蓄積である東大図書館を一朝のうちに潰滅させた。震災とともに間髪を入れず、日本とアメリカから復興のための歴史的書翰が発送され、それは太平洋上で、すれ違った。書翰の主は日本から和田万吉、東大図書館長、アメリカから朝河博士。博士は、その後、東大復興のため米国議会図書館長パットナムを動かし、それは更に全米に波及した。パットナムは自館の東洋部日本文献の充実に博士の貢献が決定的に大きかったことを感謝しながらの行動であったと思われる。

「朝河が図書・資料の収集にみせた手腕は見事なものであった」。「この驚異的な仕事を果して…」。「いずれも第一回帰朝のときの収集活動に対して著者が博士に寄せた讃辞である。更に大震災のあと、焼け跡の中から博士に東大図書館復興援助を呼びかけた館長、和田万吉は「朝河の実行力と系統的な図書収集能力とアメリカ国内において彼が持っている影響力を十分に知っていた」のである。こう書いていて、なにやら博士と同時代人にして、しかも同じような超能力をもち、日本文化の発展に限りない貢献をした人がいたように思えてきた。それは旧制一高校長初代京大文科大学（文学部）部長、狩野亨吉。「資料は、それを知る人のもとに、ひとりで集ってくる」といわれた人である。博士と狩野亨吉は同時代人であり、専攻分野が近接し、両者とも似たような鑑別能力を持っていたと思われるので、いつの日か、どこかで接触していたと思われるが、本書にその記録はない。本書の趣旨からすれば、狩野亨吉は出てこないかも知れないが、朝河資料の中に狩野亨吉が現れてこない筈はないと思われる。

〈特別寄稿〉

澤田梯君の 思い出

高久田大一郎

沢田君とは小学校の同級生であります。沢田君は安中へ進み、私は須商から仙台商業へ進みました。沢田君と一緒に須賀川小学校から安中

へ進んだ同級生は15人位はいたでしょうか。しかし小学校ではろくに勉強しないで体操ばかりやっていたし、暴れてばかりいた組でしたから、安中へ入学したときの成績はそれほど上位ではなかったろうと思います。

沢田君たちが安中5年生になったときに須賀川の町にこんな噂がひろがりました。安中5年生の級長を須賀川からの通学生たちが独占したというのでした。詳しく言いますと1組から4組までの正副級長8名のうちに沢田君ら4、5人が入ったということです。

その4、5人というのは沢田 梯君、柳沼久弥君、佐久間友之助君、斎藤実君などです。このほかにも居たのかも知れませんが、正確にはわかりませんが沢田君たち須賀川勢が5年生の級長になったのは事実だったようです。

1年生、2年生のころは目立たなかった須賀川勢が4年生から5年生になるとときには、ごつそりと頭角を表わしたわけです。小学校時代の悪戯つ子たちが揃って成績優秀な安中生となったのですから須賀川の町の噂となったのは無理からぬことでしたらう。

前に名前を挙げた諸君のうち、斎藤実君と佐久間友之助君、それに柳沼久弥君は、すでに惜しまれて、他界しました。沢田君1人が健在で活躍中で、嬉しい限りです。

今年は子年。沢田君も子年生まれのはずです。東京桑野会の会長に就任されたそうですが名会長となられるでしょう。沢田君の経歴、手腕、力量からいっても名会長になられることは歴然としております。そして東京桑野会の隆昌をご期待申し上げます。

(58年県文化功労章受賞者)



営業種目
給排水衛生設備
空気調和設備
設計・施工

代表取締役 大森直道 (第49期)

株式会社 弥生工業

東京都品川区南大井5丁目24番11号 ■神奈川支店 ■横浜営業所
電話 東京 03 (763) 5231 番(代)・4751 番(代) ■川崎営業所 ■町田営業所

ある夜の出来ごと

79期 大竹英雄

「ダンノ」ドアが閉まると、2名の美女をエスコートした先輩方のタクシーは静かに滑り出し、木枯し吹き荒ぶ師走の夜の雑踏の街を左右に見ながら一路「和・中華風、小料理屋」へと疾走していった。

—昭和58年12月7日夜一椿山荘新館オープン記念パーティである。

幸運にも竹花則栄支配人（55期・東桑会幹事長）のご招待を受けた私は、空腹も手伝い、いつもは余りお目にかかれぬ料理の林に分け入って、ご馳走にむしゃぶりついた。

やや満足して気持ちに余裕ができる、独身と思われるギャル（招待客）が大勢参列していることに気づき、常日頃の強固な独身主義も他愛なくぐらつき私の瞳の中を美女たちがチラチラし始めた。これはイカンノ呑みなれぬ酒を呑み過ぎたかな？と思っていると突如ホールを揺るがす音楽。そして予期せぬSKDの登場である。

誘うような笑みを目許、口許にたたえて躍動する若き肉体。私事ながら、私は2番目に登場した、2列目下手2番目のコが好みのタイプであった。

それにしても流石といおうか、何んといおうか、先輩方がたむろしていたのは、正に仮設舞台の前方、靴がとんでくればタダでは済みそうもない。、「カブリつき」であった。会報3号の吉田先輩のタイトルではないが「先輩の有難さ」はここでも遺憾なく発揮さ

れたのである。知って知らずにか本日の「功労賞PART I」であった。

パーティが終り、我々は二次会目当てでタクシー乗場に並んだが、気がつくと桑野会グループの先頭あたりで列が乱れ、コブができていた。なんと50歳台の先輩方が4～5人、顔を紅潮させながら前に並んでいた2名の美人ギャルに二次会参加の勧誘をしているところであった。

更に60歳台の先輩方が数名入れ代り、立ち代り波状攻撃をかけている。「本当にモノになるのかなー？」と思っていると説得が奏効したのか、多勢に無勢で押し切られたのか？壮挙ノではあった。（一説によれば二次会参加の最年長組、60歳台の方々の気品と威厳が信頼感を与え、彼女らのdecision makingに決定的に関与したといわれる）

さて、これら先輩のお陰で大いに盛り上がった二次会は10時近くにお開きとなり、我々は三次会組と残留組に分かれて、しばしの宴の余韻を胸に残しながら小料理屋をあとにしたのであった。男だけの桑野会員の二次会に見知らぬ淑女をHuntして？参加を実現させたという、硬派で鳴らす桑野会開びやく以来の革命的変革？を達成した、この「突撃精神」を見よやノ若干お酔いになっていたとはいえ、突破口を開いたおん年50歳台の先輩方に本日の功労賞「PART II」を贈ろう。なお二次会に参加した東桑会員20余名全員の一致をもって、これらギャルを特別会員として、総会に招待しようとの発議があったこと、及びこれらギャルから後日丁寧なお礼状を頂戴したことを付記しておく。

伝言板

今回より伝言板コーナーを設けますのでご活用下さい。

☆新会長を迎え、7月14日には母校百周年記念東京桑野会総会が開催されます。関東地区の諸兄の強力なご支援とご参加をお願いします。（43期・鎌田正二 58期・小浜精吾 63期・大橋力雄）

☆高校一期生大和君ノ柳沼弥重先生を囲んで君が質問した染色体の話をやりましたよ（58期・星武典）

☆合唱団(部)OBの名簿を作成しております。39～42年卒以外の方は下記へご連絡下さい。

(79期・大竹英雄・世田谷区鎌田2-3-5 TEL 707-0620)

編集後記

よく降りました今年の雪は。電車不通、停電、入荷激減。パニックの手前の事故も毎回。東京という都市の、また住んでいる人間の余力が、あといくらかもないことを露呈しました。タッペすべりの子供は1人も見かけません。ついに雪だるまもお目にかかりませんでした。しかし嬉しいこともありました。6度降った大雪のたびごとに、だんだん雪かきの人がふえたことです。人間は共同しなければならぬ、という気持ちが本能として残っていたせいでしょ。

会報の編集も楽しいが、相変らず苦闘の連続でした。

とびとびのクラスの人の発言が他の人に新鮮な驚きをあたえるのです。ヨコには仲のよい人達が、タテには断絶しているのが桑野会の弱点のひとつです。

5号は百周年記念号です。思い出になるようなものになりたいと思います。斬新な企画を、原稿をノ（大森）

*表紙の絵は第37期、水田荘介さん（一水会会員）の作品で澤田会長所蔵のものです。

